

令和6年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

3年

教科	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
国語	<p>○漢字の定着に大きな差があり、学期末の漢字まとめテストでは、40%の児童が80点未満だった。既習の漢字を使わずに平仮名を使って書く児童がいる。</p> <p>○話すことにおいて、ペア、グループでの話し合いでは、自分の考えを伝えることができる。しかし、全体の場で話すことに抵抗感をもつ児童が多くいる。</p> <p>○書くことにおいて、文章構成に気を付けて内容を整理して書くことが難しい。</p>	<p>○日頃のノート、プリント、作文などを確認し、国語以外の学習でも積極的に漢字を使っている姿を評価する。また、漢字を使ったミニゲームなどで楽しみながら漢字に親しむ機会をつくる。</p> <p>○引き続き、グループ・ペアなど、話し合いの形態を工夫して活動を行い話し合い活動を重ねる。また、スピーチなど全体の場で話す機会を設け、場になれるようにする。</p> <p>○授業では例を示して、「はじめ・中・おわり」の役割を理解したり、構成を意識したりできるようにする。</p>	
社会	<p>○学習に対する意欲があり、文京区テストで85%程度正答を得ることができている。地形や人口の割合などの図や資料から必要な情報を読み取り問題に答えたり、知りたい情報を探し出したりすることに課題が見られる。</p> <p>○学校のマップ作りでは、地図記号や絵などを使って分かりやすく作成することが課題となった。</p>	<p>○資料を扱う活動を通して、必要な情報を読み取ったり、資料を選んだりすることができるように指導していく。</p> <p>○地図記号や方角など繰り返し学習の機会を設けて習熟させる。日常的に東西南北を意識させたり、地図を積極的に用いたりする。</p>	

理科	<p>○学習への意欲が見られ、テストで平均90%以上正答を得ることができている。自ら問題を設定する力が身に付いていないことが、今後の課題である。</p> <p>○「チョウのかんさつ」では実物を観察できる機会が少なかったため、写真中心の学習になり、あまり主体性が見られなかった。</p>	<p>○単元初めの、試しの実験の段階で、差異点や共通点を見付けやすい活動を意図的に設定し、自ら問題をつくりやすくする。</p> <p>○実験や観察の際は、できるだけ実物を用意し感触やにおいなど、体験的に学習ができるようにする。難しい場合は適宜 ICT 教材を活用していく。</p>	
体育	<p>○楽しんで体を動かすことができている。しかし、体育の授業以外での運動経験が少ない児童がいる。</p> <p>○友達によかったところや自分が上手くできたときの体の動かし方などを言語化し、伝え合うことに課題がある。</p>	<p>○さまざまな種類の運動を行い、適切な体の使い方を身に付け、運動の楽しさに気付けるようにする。また、体力の向上も図れるように運動量も確保する。</p> <p>○良かったポイントを言語化し伝え合う活動を設定し、互いにアドバイスし合い、高め合うことができるような環境づくりをする。</p>	
総合的な学習の時間	<p>○国語の学習で自分のテーマを決めて必要な情報を集める学習行い、問題解決の基本的な手順を知った。自分で課題を決めることに課題がある児童がいた。</p> <p>○国語でローマ字を学習し、タイピング練習を行ったが、まだ定着が不十分である。</p>	<p>○学習方法の定着のために、自身で課題を発見し、問題解決方法や手順を理解できるように身近なテーマで調べ学習を行う。</p> <p>○引き続き、タイピング練習を行う。また、タブレット PC を使って学習のまとめをするなど活用できる機会を作る。</p>	